

最新・調査結果
から考える

高校生は今、 どう将来を思い描き、 進路選択しているか

情報技術が発達し変化予測の難しい今を生きる、現代の高校生たち。自身の将来や進路については、どのような意識・価値観を持っているのでしょうか。「今と未来」「進学」「仕事」の各テーマについて、小社が数年ごとに実施している「高校生価値意識調査」の最新結果を基に探っていきます。

調査概要「高校生価値意識調査2022」

- 調査目的：高校生の進学や仕事・将来のライフデザインに関する意識・価値観についての実態を把握し、高校生への理解を深めるための一助とする。
 - 調査期間：2022年8月26日(金)～8月30日(火)
 - 調査方法：インターネット調査(パネル「GMOリサーチ」)
 - 調査対象：調査開始時点で高校1～3年生で、卒業後の進路として大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している者(全国)
 - 有効回答数：1,727人
- 分析を行うにあたり、「関東」「東海」「関西」「その他エリア」それぞれにおいて、文部科学省「令和3年度学校基本調査(確定値)」から調査対象の母集団の男女構成比を算出し、回収後の全体に占めるエリアの男女構成比についてウェイトバック集計により補正を行っている。

今と未来

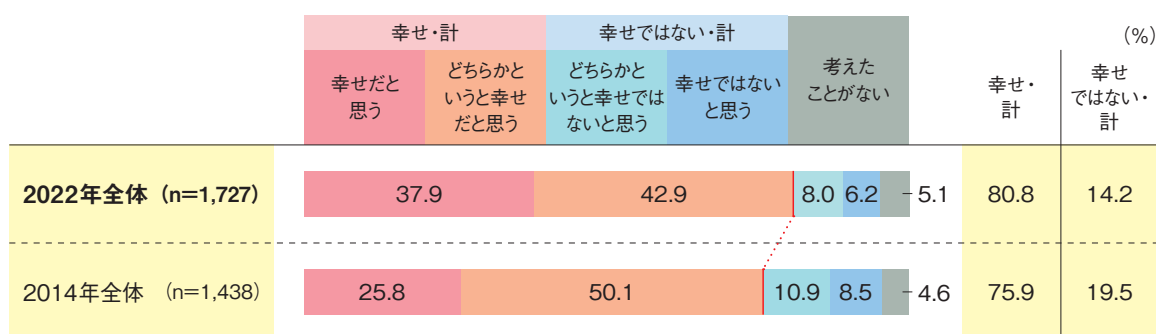
現在「幸せ」という高校生は8割超 強みも弱みも、デジタルの影響大

コロナ禍が続き、ウクライナ戦争や世界的な物価高などが日常生活にも影を落とした2022年。そのなかで自身を「幸せ」と思う高校生は81%と、14年調査時より増えている(図1)。「幸せ」の回答理由からは、「衣食住に困らない」「元気に生きている」など、今ある日常を幸福と感じている様子が見えてくる。一方、「幸せではない」の理由には、時間的・金銭的不自由、学

習や人間関係の困難などが目立つ。また、両方の回答理由に「目標」や「夢」という言葉が散見され、その有無も幸福感を左右するようだ。

自分たちの世代ならではの「強み」については、1位の「インターネット・SNS」22%をはじめ、デジタル社会を反映する回答が上位(図2)。「弱み」については「コミュニケーション・会話が下手」10%、「SNS・インターネット依存」6%などデジタル化の負の影響といえる内容が目立つ(図3)。「ゆとり教育」が多かった10年前とは異なる。

図1 現在の幸福感 (全体/単一回答)



【フリーコメント】 幸福感に対する回答の理由

- 幸せ**
- 衣食住に困らないから。夢を持つことができるから (1年・男子)
 - やりたいことに熱中できているから (1年・男子)
 - 元気に生きているから (1年・女子)
 - 将来の目標があるし、つらいときがあっても話せる友人がいるから。 (2年・女子)
 - 不自由のない生活だから (2年・男子)
 - 家族がいて友達がいるから (2年・女子)
 - 戦争がない国に住んでいるから (3年・女子)
 - 好きな志望校を目指せる (3年・男子)

- 幸せではない**
- 学校がつまらない (1年・男子)
 - まだ、ちゃんとこれだという夢、達成したいものが決まっていないから (1年・女子)
 - 勉強が難しいと感じてるから (1年・男子)
 - 生活がカツカツだから (2年・女子)
 - やることが多く、息が詰まるから (2年・女子)
 - 少しコミュニケーションが心配で、たまに疎外感を感じるから (2年・男子)
 - 受験、家族、友人関係のストレス (3年・女子)
 - 将来が見えない不安があるから (3年・男子)

「自分の将来が明るい」は7割強 友人・家族を大切にしていきたい

では、将来についてはどう考えているか。まず、「目標がある」という高校生は76%と多数を占める(図4)。「自分の将来が明るい・計」は71%で、14年より増加(図5)。また、目標が明確にある人ほど、自分の将来を明るいと感じる傾向がある(図6)。

将来についてのさまざまな考え方のうち、最

も多いのは「友人はずっと大切にしていきたい」82%、次が「家族はずっと大切にしていきたい」79%と、身近な人と共に生きていくことを重視しているようだ(図7)。14年から最も増えているのは「いい大学やいい会社に入れば将来は安泰だと思う」で、“所属”に頼る傾向がうかがえる。「誰かの役に立てる生き方をしたい」「お金を稼ぐより他人から尊敬・感謝される大人になりたい」などの増加からは、他者への貢献意識の高まりが見える。

図2 自分たちの世代ならではの「強み」・上位5項目 (自由回答)

2012年調査 (n=1,329)			2022年調査 (n=1,727)		
1位	IT・情報化社会・デジタルに強い	11.6%	1位	インターネット・SNS	22.0%
2位	若さ	5.4%	2位	IT・情報化社会・デジタルに強い	15.6%
3位	インターネット・ネット	3.3%	3位	情報の収集力・伝達力	5.8%
4位	柔軟性	2.3%	4位	諦めない・我慢強い・忍耐力	3.3%
5位	発想力	2.2%		世界的出来事(コロナ)	3.3%
	自由がある	2.2%			
	ポストバブル・不況・不景気の経験	2.2%			

図3 自分たちの世代ならではの「弱み」・上位5項目 (自由回答)

2012年調査 (n=1,329)			2022年調査 (n=1,727)		
1位	ゆとり・ゆとり教育・ゆとり教育世代	25.0%	1位	コミュニケーション・会話が下手	9.7%
2位	学力・学習不足・知識不足・頭が悪い	8.6%	2位	SNS・インターネット依存	5.8%
3位	諦めやすい・我慢できない・忍耐力(がない)	3.5%	3位	経験不足(人生・社会)	4.7%
4位	打たれ弱い	3.4%	4位	コロナ影響	4.4%
5位	コミュニケーション・会話が下手	2.8%		読み書き・活字離れ・語彙力	4.4%

図4 「目標」としていることの有無 (全体/単一回答)

	目標あり・計		目標なし・考えたことがない・計		目標あり・計 (%)	目標なし・考えたことがない・計 (%)
	目標としていることがある	ある程度、目標としていることがある	考えたことはあるが、目標はまだない	考えたことがない		
2022年全体 (n=1,727)	46.1	30.1	18.1	5.8	76.2	23.8

図5 「自分の将来」の明るさ (全体/単一回答)

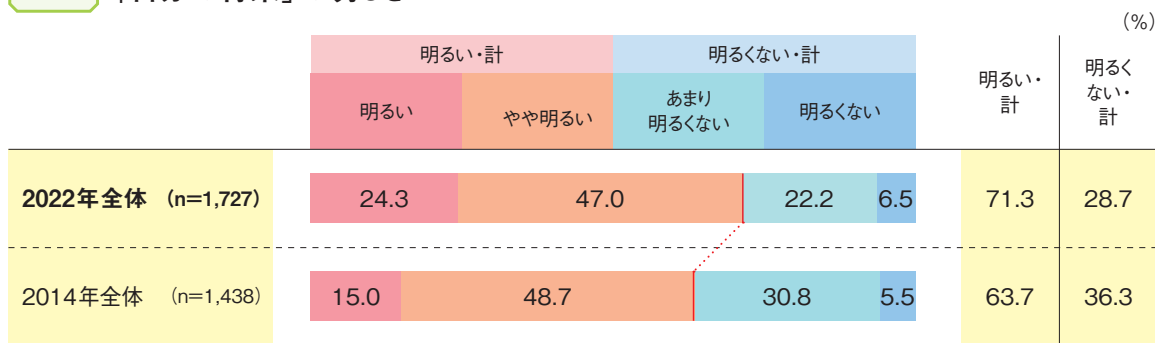


図6 「自分の将来」の明るさ【目標としていることの有無別】 (全体/単一回答)

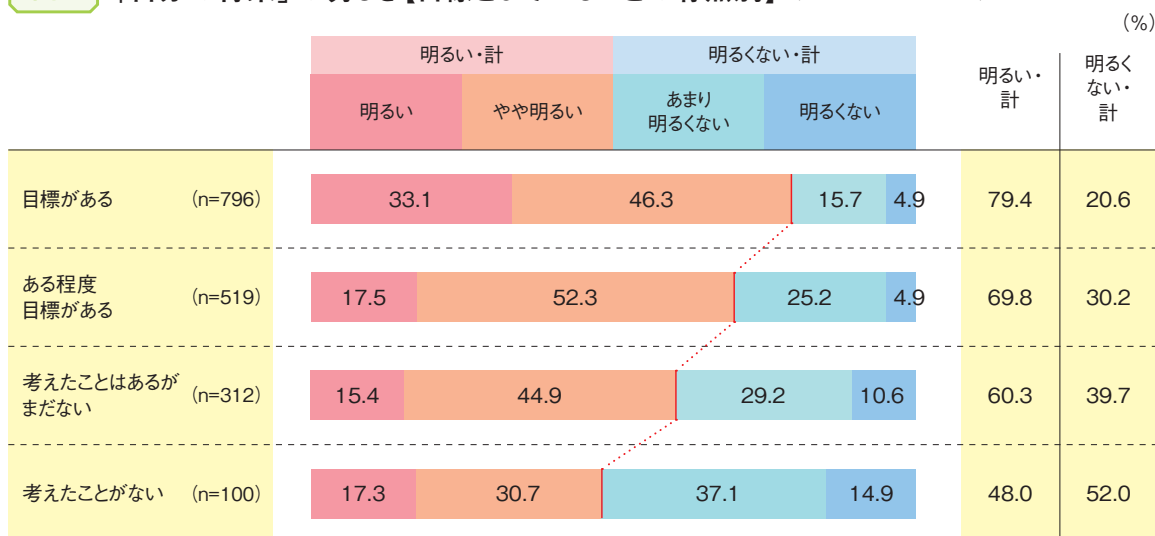
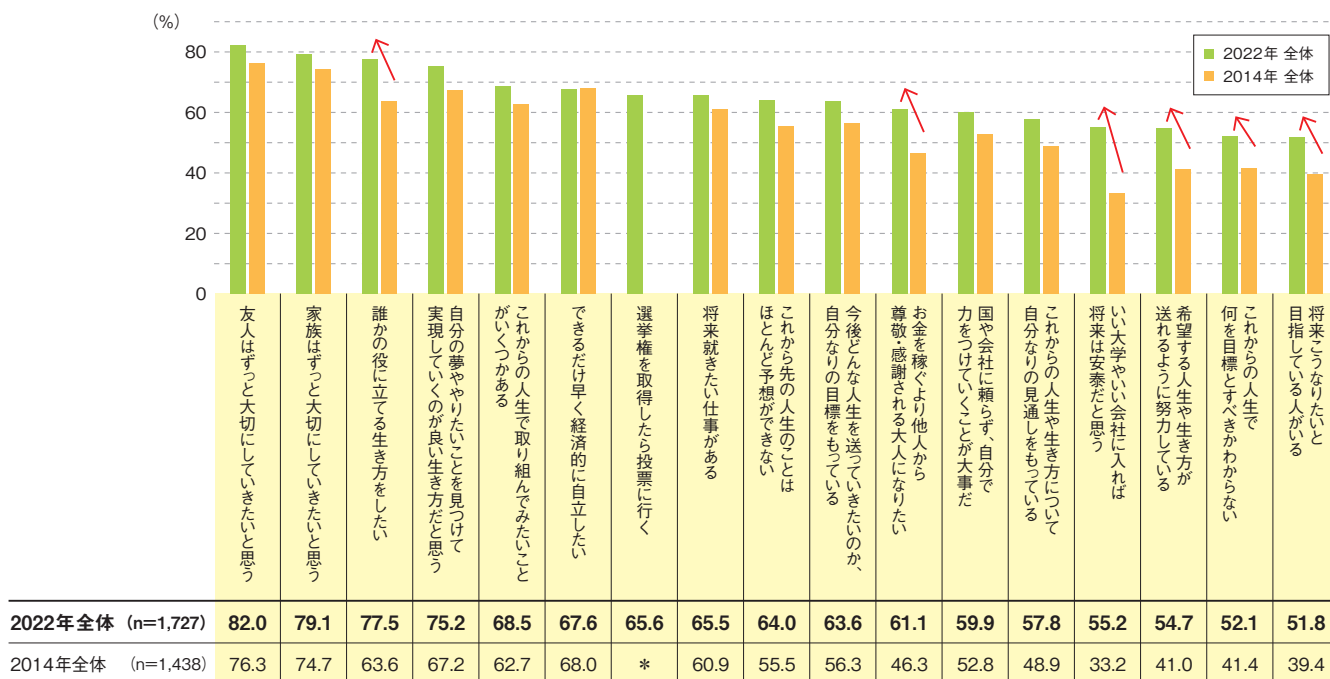


図7 将来観 (全体/各単一回答「あてはまる・計」のスコア)



※「2022年全体」の降順にソート/上位17項目を抜粋/数値欄の*は該当年の調査なし

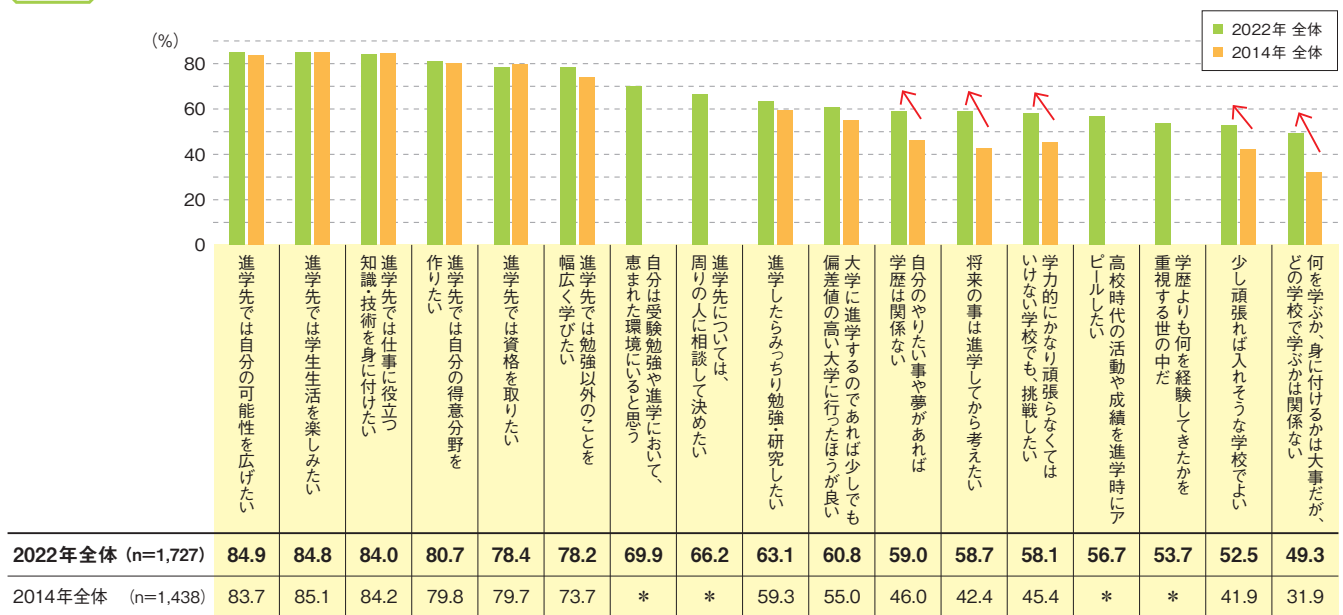
進学

進学に対し幅広い期待感 「学歴よりやりたい事」が増加

まず、進学に関するさまざまな考え方についての質問では、「自分の可能性を広げたい」85

%、「学生生活を楽しみたい」85%、「仕事に役立つ知識・技術を身に付けたい」84%など、多様な項目が8割を超える(図8)。進学に対し、勉強以外にも幅広い期待感をもっているようだ。14年と比べると、上位項目に大きな変動はない

図8 進学観 (全体/各単一回答「あてはまる・計」のスコア)



※「2022年全体」の降順にソート/進学に関する上位17項目を抜粋/数値欄の*は該当年の調査なし

解説 進学や将来に対する考え方タイプの特徴

将来や進学に関する質問への回答を基に8つのタイプに分類

プロ突進タイプ

なりたい自分に向けてあれこれ楽しみながら、成功をつかみたい

自分の夢・興味を仕事にして、大きな成功や出世、富などのステータスを得ることを重視。進学後の学生生活を謳歌したい気持ちも強い。

自分探タイプ

まずは進学することが目標。将来はこれから考えていけばいい

進学して勉強することへの意欲はある程度うかがえるが、将来の仕事や生き方についてはまだ具体的な希望がもてずにいる。

ブランド重視タイプ

偏差値の高い学校に入って出世や富を手にしたい

有名企業への就職や出世・富などのステータスを重視。真面目に勉強することや、自分の夢・興味を仕事にすることはあまり重視していない。

未成熟タイプ

夢はなく、勉強は嫌い。とりあえず進学しよう

叶えたい夢があるわけではない、勉強への意欲が低く、進学後にやりたいことも明確でないが、進学は希望している。

おっとりタイプ

夢はあるが高望みはしない。そこそこ楽しく生活できれば満足

進学後は学生生活を謳歌し、将来は夢・興味を仕事にすることを希望。しかし、高望みせず適度に楽しく生活することを重視し、地位上昇志向は低い。

学者タイプ

コツコツ勉強して得意分野をつくりその道の専門家に

進学して真面目に勉強することや、仕事に役立つ知識・技術を身につけることに意欲的。その先に、夢の実現や大きな成功を思い描いている。

好きエンジョイタイプ

進学して自分の可能性を広げ、好きなことを仕事にしたい

進学先で自分の可能性を広げることに意欲的で、自分の夢・興味を仕事にすることを重視。地位上昇志向は低い、楽しく充実した生活を希望している。

就職タイプ

進学する必要性は感じない。仕事をもって収入を得たい

進学して学ぶこと、学生生活を楽しむことに対して関心が低い。自分の夢や興味を大切に仕事に就くことや、収入を得ることには前向き。



が、10位以降では「自分のやりたい事や夢があれば学歴は関係ない」や「何を学ぶか、身に付けるかは大事だが、どの学校で学ぶかは関係ない」の大幅な増加が目立ち、学歴や学校より“やりたい事”を重視する方向性がうかがえる。

なりたい自分に向け努力する「プロ突進タイプ」が増加

将来や進学に関する考え方への反応を基に、高校生を8つのタイプ（進学観タイプ）に分類した（解説）。その構成比が最も高いのは、なりたい自分に向けて努力する「プロ突進タイプ」で、全体の32%を占める（図9）。次いで、将来は進学してから考えたい「自分探しタイプ」18%、偏差値で大学を選ぶ傾向が強い「ブランド重視タイプ」13%、夢はなく勉強も嫌いだがりあえず進学しようという「未成熟タイプ」12%が高い。14年と比較すると「プロ突

進タイプ」の増加が目立つ（25%→32%）。

これを在籍校の大学・短大進学率別に見ると、【進学率95%以上】には「プロ突進タイプ」や「ブランド重視タイプ」が比較的多く、【進学率40%未満】には「プロ突進タイプ」がやや少ない（図10）。とはいえ、どの属性にも多様なタイプがいることは留意しておきたい。

クロス集計を用いて、進学観タイプの特徴をもう少し詳しく探してみよう。まず、目標の有無とのクロス集計を見ると、「目標あり・計」の比率が【学者タイプ】は93%、【プロ突進タイプ】は84%と高いのに対し、【未成熟タイプ】は50%と低く、タイプによって大きな差がある（図11）。

また、現在の幸福感とのクロス集計では、【プロ突進タイプ】と【おっとりタイプ】は「幸せ・計」が87%前後と高い一方で、【未成熟タイプ】は58%と低い（図12）。

自分自身の将来の明るさとのクロス集計で

図9 進学観タイプの分布（全体／クラスター分析によるタイプ分類）

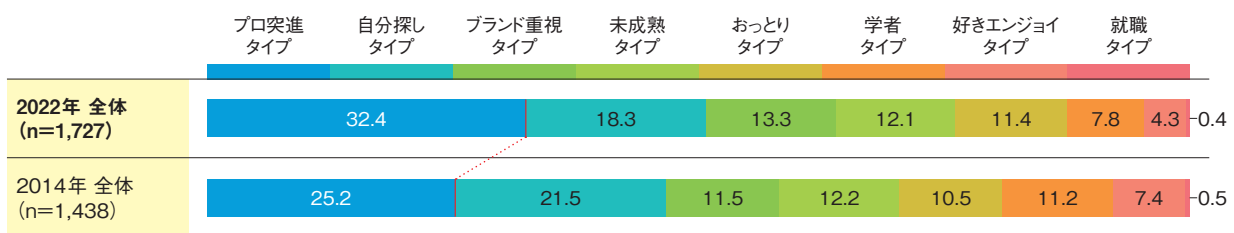
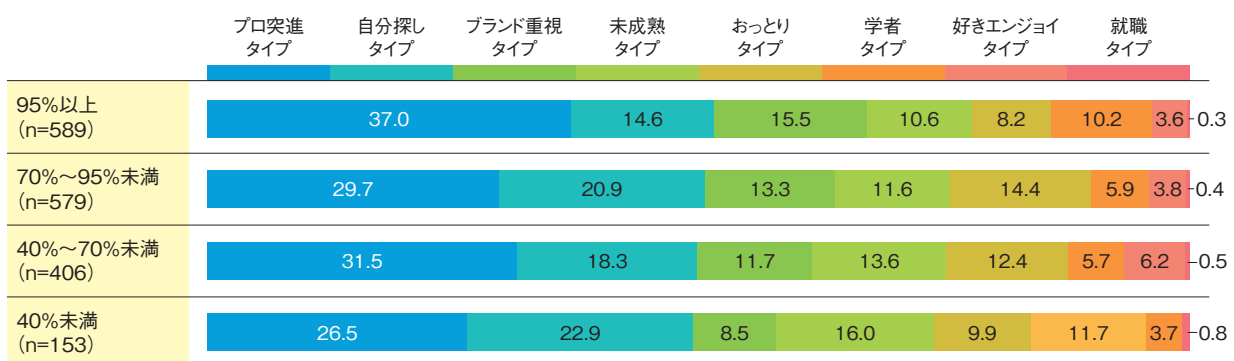


図10 進学観タイプの分布【在籍校の大学・短大進学率別】（全体／クラスター分析によるタイプ分類）



は、【プロ突進タイプ】は「明るい・計」が80%だが、【未成熟タイプ】は52%、【就職タイプ】は42%にとどまる(図13)。

幸福感や将来の明るさを感じている【プロ突進タイプ】が図9で見たように増加しているこ

とは、進路指導やキャリア教育を行う教員にとっては良い傾向といえそうだ。ただし、【未成熟タイプ】のように、目標をもてず幸福感や将来の明るさを感じにくい層への目配りや支援は欠かせない。

図11 「目標」としていることの有無【進学観タイプ別】(全体/単一回答)

		目標としていることがある	ある程度、目標としていることがある	考えたことはあるが、目標はまだない	考えたことがない
全体	(n=1,727)	46.1	30.1	18.1	5.8
プロ突進タイプ	(n=559)	57.0	27.4	13.3	2.4
自分探しタイプ	(n=316)	34.4	38.4	22.2	5.0
ブランド重視タイプ	(n=229)	42.1	29.6	23.7	4.6
未成熟タイプ	(n=209)	26.1	24.3	25.2	24.2
おっとりタイプ	(n=197)	42.9	35.2	18.8	3.1
学者タイプ	(n=135)	68.4	24.7	6.0	0.9
好きエンジョイタイプ	(n=74)	52.2	28.6	16.3	2.9
就職タイプ	(n=7)	32.9	24.8	42.3	

図12 現在の幸福感【進学観タイプ別】(全体/単一回答)

		幸せだと思う	どちらかというと幸せだと思う	どちらかというと幸せではないと思う	幸せではないと思う	考えたことがない
全体	(n=1,727)	37.9	42.9	8.0	6.2	5.1
プロ突進タイプ	(n=559)	49.2	38.0	5.7	3.7	3.3
自分探しタイプ	(n=316)	26.8	52.9	7.6	6.9	5.8
ブランド重視タイプ	(n=229)	42.8	40.3	8.6	7.0	1.4
未成熟タイプ	(n=209)	21.1	36.6	13.4	10.1	18.8
おっとりタイプ	(n=197)	41.0	45.8	7.3	4.4	1.4
学者タイプ	(n=135)	38.1	42.8	8.5	8.0	2.6
好きエンジョイタイプ	(n=74)	24.5	54.9	10.0	8.1	2.5
就職タイプ	(n=7)	29.0	43.5	12.6	14.9	

図13 「自分の将来」の明るさ【進学観タイプ別】(全体/単一回答)

		明るい	やや明るい	あまり明るくない	明るくない
全体	(n=1,727)	24.3	47.0	22.2	6.5
プロ突進タイプ	(n=559)	36.5	43.7	15.1	4.7
自分探しタイプ	(n=316)	11.8	54.4	27.6	6.2
ブランド重視タイプ	(n=229)	22.8	50.9	21.6	4.7
未成熟タイプ	(n=209)	16.9	35.4	35.7	12.0
おっとりタイプ	(n=197)	19.2	53.1	19.5	8.2
学者タイプ	(n=135)	27.8	48.3	18.4	5.6
好きエンジョイタイプ	(n=74)	18.3	45.0	30.1	6.7
就職タイプ	(n=7)	25.1	16.5	27.1	31.3

仕事

仕事には金銭面だけでなく 自分の幸せ、やりがいも重要

将来、仕事をもって働く目的についてはどう考えているか。最も多いのは「金銭的に豊かな生活をするため」57%で、「自分自身の幸せ」47%、「やりたいことの実現」46%なども半数近く回答している(図14)。

また、「いい仕事」とはどのような仕事をイメージしているかについては、最多は「収入が高い」59%で、「やりがいを感じられる」47%、「安定している」45%が続く(図15)。

これらの質問の最多項目からは、社会の経済的な不安を反映してか金銭的安定への期待感がうかがえる。しかし、ほかに多様な回答も

あがっていることから、仕事をするうえで重要なのは金銭面だけではないようだ。

“自分”を大切にしながら “安定”と“自由”を求める傾向

就職・仕事のさまざまな考え方について、当てはまるものの回答が50%を超えた項目を抜粋して、種類別にグラフにした(図16)。まず、仕事内容に関する項目を見ると、最も多いのは「自分がやりたくない・自分に合わない仕事はしたくない」84%、次が「自分が成長できる仕事がしたい」81%と、“自分”を軸にした考え方が上位に並ぶ。14年との比較では、「身近な人の役に立つ仕事がしたい」「社会貢献ができる仕事がしたい」など他者への貢献や、「仲

図14 将来「仕事をして働く」目的・上位5項目 (全体／複数回答)

1位	金銭的に豊かな生活をするため	57.1%
2位	自分自身の幸せのため	46.8%
3位	やりたいことを実現するため	46.3%
4位	人の役に立つため	37.0%
5位	家族を養うため	27.4%

図15 「いい仕事」のイメージ・上位5項目 (全体／複数回答)

1位	収入が高い	58.8%
2位	やりがいを感じられる	47.4%
3位	失業する可能性が低く、安定している	45.4%
4位	人気のある職種・会社である	24.0%
5位	人に自慢できる	23.4%

間と作り上げる仕事をしたい」「チームで働ける仕事をしたい」など協働に関する項目が増加している。

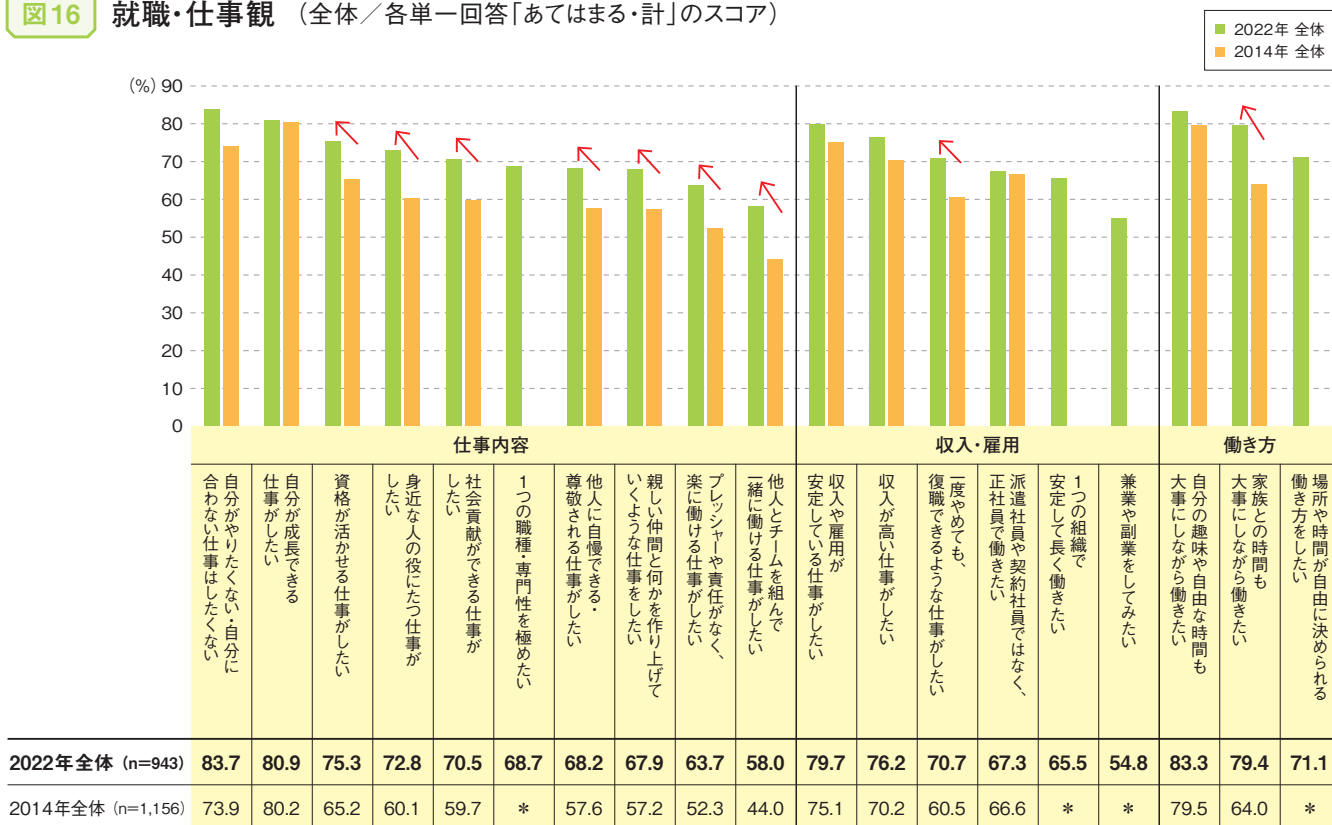
収入・雇用に関する項目のなかでは「収入や雇用が安定している仕事をしたい」80%が最も多い。14年と比べると、「一度やめても、復職できるような仕事をしたい」が増加。“安定”を一層重視する傾向が見える。

働き方に関する項目のなかで最多は「自分の時間も大事にして働きたい」83%だ。ほか、「家族との時間も大事にして働きたい」79%、「場所や時間が自由に決められる働き方をしたい」71%なども多く、時間や場所に縛られない“自由”を求める様子が見える。

今回の結果からは、わずか10年足らずの間にも、高校生の意識・価値観が確実に変化していることが見えてきた。特に、夢や目標をもつことやそれを実現させることなど、“自分”をより重視する傾向がさまざまところで浮き彫りになったのが、大きな特徴だ。

高校生の意識・価値観の変化には、社会環境の変化のほか、各校の探究活動やキャリア教育の充実を反映している可能性がある。今後、多様な高校生の意識・価値観の理解を基に、一人ひとりの明るい将来に向けた支援の一層の充実が期待されている。

図16 就職・仕事観（全体／各単一回答「あてはまる・計」のスコア）



※設問の種類別に降順ソート／スコアが50%以上のみ抜粋／数値欄の*は該当年の調査なし